

# 「2014TOKYO国際木工機械見本市」 グリーン産業フェア」4月1日(火)より 出品募集開始!

日本木工機械協同組合主催で10月16日〜18日開催!!



▲日本木工機械協同組合 原口博光理事長

日本木工機械協同組合（東京都港区芝公園三―五―八 機械振興会館、原口博光理事長、☎〇三―六四三―五―八二―一五）が主催する「2014TOKYO国際木工機械見本市／グリーン産業フェア」が、今秋一〇月一六日(木)〜一八日(土)に東京ビッグサイトでの開催が決定し、鋭意準備が進められている。

今回はこれまでの「東京国際木工機械展」から「2014TOKYO国際木工機械見本市／グリーン産業フェア」へと、名称も一新する。これは、国際色豊かな東京展の歴史を継承しつつ、且つ、CO<sub>2</sub>吸収源としての木材ならびに木材産業が担う役目を国内外に発信するため、産

官学一体となった総合見本市としての役割を目指す思いが込められている。

会場は前回同様、東京ビッグサイト西3ホールで最大二〇〇小間限定となるが、既報の通り、有識者（服部順昭 東京農工大学大学院教授（審査委員長）、藤井義久 京都大学教授、村田光司 森林総合研究所加工技術研究領域長）で構成される評議委員会により選定される賞が新設される。

また、前回展で大好評だった「グリーンサーキットコーナー」による木工加工最終製品の紹介も安藤直人 東京大学名誉教授の監修の下、継続される。

その意気込みと方向性について、原口博光理事長（日新興産(株)社長）は次のように語っている。

原口博光理事長——今回の見本市は、消費税増税後初めての木工機械展となる。増税で今後ますます景気は厳しくなってくるのが予想され、今回展ではいかに出品者の負担を軽くするかということに主眼を置いて、出品料金や運搬費用の一部を主催者が負担しようと考えている。

大勢のお客様に来場してもらうためには、出品者の負担を少しでも軽くして多

くの製品を披露しないといけない。出品者が儲かるような、成長戦略のお手伝いをする見本市でない。それが、消費税増税後の見本市の役割なのだろう。

戦後植林されたスギが六〇年以上経ち伐採期を迎えている。そして木材研究が進むにつれて、木材の人体への効用や地球温暖化の原因であるCO<sub>2</sub>の削減効果を持つことなどが明らかになっており、だからこそ、国が関与して日本材をどんどん使う制度や仕組みを作らないといけない。国は日本の林業を、長い間個人の経営に任せてきた責任があり、だからこそ、地球温暖化抑制効果を持つ木材産業に対して、その産業の見本市に国がやるべき支援を考えてもらうよう働きかける。

見本市は社会との窓である。社会との窓を開いて国内産業を活性化させることが、外貨を呼び込み貿易赤字を減らしていくことに繋がる。故に、木材の安定供給や価格面の問題等を、広い意味で研究する取り組みが必要だ。産官学の連携を互いに模索する勉強会が必須だろうし、見本市でそのようなセミナーができる場を提供したい。

最終的には、我々の見本市を名古屋と東京が協力し合って二年に一度、開催

できるようにしていきたい。それはやはり諸官庁の協力を仰ぐためには東京ビッグサイトでの開催が望ましいだろうし、両展が協力することによって集客力も高まる。そのような方向に持って行くために、木材産業が日本の基幹産業になるため、魅力ある見本市にするために、産官の連携を強めていく必要がある。

今回は難しいだろうが最終的には、見本市が観光と結び付き、旅行会社と連携することで海外からの来場者を多く呼び込めれば、新基軸が生まれることになる。見本市の視察と共に日本を観光してもらえれば、見本市も更に魅力あるものになり、国も潤っていくだろう。

☆☆☆☆

その言葉の通り、出品者の負担を軽減するため、今回展は小間料金が安く設定されている。また、運搬費用の一部も負担されるそうだ（詳細は後日決定予定）。募集開始は間もなく。出品を考える方々には今から準備をお願いしたい。

## 「2014TOKYO国際木工機械見本市」 グリーン産業フェア

- ▽募集期間 〓 四月一日(火)〜六月三〇日(月)
- ▽出展料金 〓 小間(3m×3m) 当たり、一三万円(一、二小間)、二二万円(三、五小間)、一九万円(六、九小間)、一七万円(一〇、一四小間)、二五小間目からは一小間二万円。(いずれも外税)
- ▽主な出展対象 〓 住宅、木材、建材、家具、建具等々の加工に資する機械・刃物・工具・ソフト・関連資材
- ▽問い合わせ 〓 日本木工機械協同組合(☎〇三―六四三―五―八二―一五、FAX 〓 〇三―六四三―五―八二―二四、メール 〓 nichimoku@tokyo.email.ne.jp)